

国語

注意

- 一 答えは、すべて、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。
- 二 漢字はかい書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 三 問題用紙は二枚あります。

【1枚目】

受検番号

一 次の文章を読んで、後の1〜6の問いに答えなさい。

大きく育った大木を見てみると、私は動くことのできない生きものの生き方とは何だろうか、考えることがある。私たちは、自分自身が移動できることをゼンテイ^①にして自由を考えている。ところが木は、動けないからこそ、ひとつの能力を身につけたような気がする。それは自分が必要としているものを呼び寄せるといふ能力である。

秋に落とす大量の落葉は、微生物や小動物を呼び寄せ、そのことによつて彼らにヒリヨウ^②をつくつてもらっている。木がもつホスイ^③能力も何かを呼び寄せるためのものかもしれない。ときにたくさんの花をつけて虫たちを呼び寄せ、たわわに実をみのらせて、鳥や山の動物たちを呼び寄せる。そうやって他者の力を借りながら、木は生きているように感じるのである。

そうでなければ、そのほとん^aどが何百年も、あるいは千年以上も生きつづける木が、毎年あれほど多くの実をつける必要性は理解できない。もしも子孫を残すためだけだったら、毎年一粒の実をつけ、その1%が芽を伸ばすことができるだけでも、大抵の木は数本の子孫を残すことが可能なはずなのだから。

b 木々は、毎年山のような花をつけ、山のような実を落とす。なぜなのだろうか。もしもそれが他者を呼び寄せるためのものだとすれば、私も何となく納得^④ができるのである。

そして、もしそうであるとするなら、木が自由に生きるためには、他の自然の生きものたちも自由に生きていられる環境が必要である、ということになるだろう。木は自分の自由のために、他者の自由を必要とするのである。

それは素晴らしいことである。人間はときに自己の自由を手にするために、他者の自由を犠牲^⑤にさえるのに、木は他者の自由があつてこそ自分自身も自由でいられるのである。

d 自由を、日本の昔からの言葉のつかい方に従つて、自在であることと言ひ直せば、木が自在な一生を生きるためには、自在に他者を呼び寄せ、自在に他者とともに生きていく世界が必要ははずである。

こんなふうと考えていくと、自由はさまざまである。移動できないものの自由も、ここにはある。一本の大木を見上げると、何百年もの間そこを動くことなく生きつづけた偉大さを、私たちは感じる。

(注) たわわに 枝がしなうほどにたくさんなさま。

(内山 節 『自由論』による。)

二

1 線部①～⑤のカタカナの部分に、漢字の部分をはひらがなに直して書きなさい。

2 線部 a はどの語にかかるか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

3 b に入る最も適当なことを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

4 線部 c について、筆者が仮定している内容を、解答欄の「であること。」につながるように三十五字以内で書きなさい。

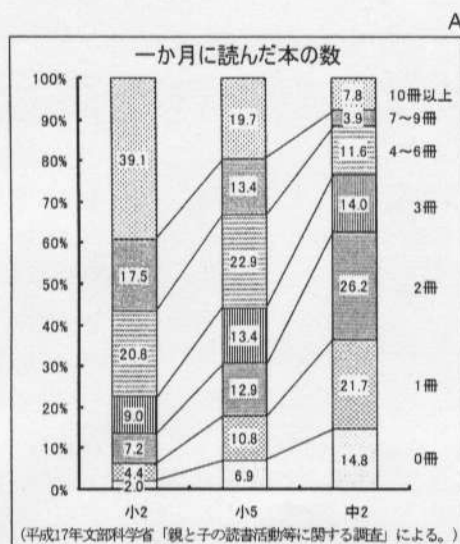
5 線部 d について、筆者が言い直した理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「自由」と「自在」の違いを強調するため。 イ 「自在」と言い換えて話題を転換するため。

6 線部 e について、筆者は木のどのようなことが偉大だと述べているのか。三十字以内で書きなさい。

下に示すAとBは、読書に関する調査の結果と読書週間のポスターです。AとBをふまえて、読書に対するあなたの考えを書きなさい。

《注意》
原稿用紙の正しい使い方を
い、百字以上、百四十字以内で書くこと。



【2枚目】

受検番号

三

次の文章を読んで、後の1〜7の問いに答えなさい。

初冬の山々は眠りに入ろうとしている。深い眠りにつくのもそう遠くはなかるう。

雪嶺^{せつりや}を点じ山々眠りけり大野^{おの}林火^{りんか}とぢし眼^めのうらにも山のねむりけり木下^{きのした}夕爾^{せうじ}

日本の自然は豊かな動植物に恵まれ、しかも四季の変化に富んでいる。とりわけこの四季の変化の多彩さと絶妙さは、世界にほとんど^①レイを見ないといっている。日本人の自然観がこの自然の多様さの影響を受けていることはいうまでもない。豊かな季節感をもつことは、日本人の自然観の特質として誇るにたるものである。季節が生まれる背景にはこの微妙な季節の移り変わりがある。

それにしても、「山眠る」とは、なんとすばらしい表現であろうか。やがて長く冷たい冬が過ぎ去ると、山は目覚めてほほえみ始めるのである。人間界の一喜一憂などは、大自然の起き臥^ふしの間のささやかなできごとにすぎない。辛^{つら}く長いと感じる冬も、山がほんのひと眠りする間のことなのである。

冬は一見、殺風景とも見えるのに、季語の数は他の季節にひけをとらない。なかでも身边雑事に関するものが多いが、いかにも冬ごもりをした人々の暮らしの匂^{にお}いが感じられる。「山眠る」と類縁^bの冬の季語に、「枯」で始まるものがいくつもある。しかし、そのどれもが寒々^{さむさむ}としていて、生きものの気配が少しも感じられない。その点「山眠る」には、明らかに生きものの息吹^{いきふ}が感じられる。そこに一種のなごやかさを感じるのは、おそらくそのせいであろう。いうまでもなく、冬の山では、やがて訪^まれる春のために、生きものたちはぼつぼつジュンビを始めている。そうかと思えば、雪の下でぬくぬくと眠っている生きものも珍しくはない。冬眠する動物もそうだし、植物もまた暖かい雪の布団^{ふとん}にくるまって春を待っているのである。

「暖かい」という表現は、多少不自然な感じを与えるかもしれない。雪は冷たいものと、だれもが思い込んでいるからである。しかし、大気の温度がどんなに下がっても、積雪の層が温度を遮断^{しやだん}して、ある深さから下層の雪の中はマイナスの温度になることがない。だから厳寒の山地では、これを「暖かい」と表現してもおかしくはない。植物は

この暖かい環境のおかげで、凍害にかかることもなく越冬できるというわけである。

こうしてみると、「眠る山」の魅力もまたなかなか捨てがたい。「眠る山」をただ遠い景色としてながめるのではなく、そこに息づく生きものたちの生態にまで目を向けてみたいものである。

(注) 雪嶺Ⅱ頂上に雪を積もらせた峰。

身辺雑事Ⅱ身のまわりのさまざまながら。

凍害Ⅱ寒さによって凍るために受ける被害。

点じⅡ火をともしして。あかりをつけて。

類縁Ⅱ似かよっていて、近い関係にあること。

(北村 昌美 『森を知ろう、森を楽しもう』による。)

1 線部①～⑤のカタカナの部分に、漢字の部分にひらがなに直して書きなさい。

2 線部aの「この」と品詞が同じものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア そう遠くはなからう

イ ある深さから下層の雪の中は

ウ そこに息づく生きものたち

エ ただ遠い景色としてながめる

3 線部bについて、「冬の季語」がふくまれる句を、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 夕立や草葉を掴むむら雀つかめ

イ うつくしや年暮れきりし夜の空

ウ 菜の花に雨の近づくにほひ哉かな

エ こがらしに二日の月のふきちるか オ 名月や池をめぐりて夜もすがら

4 線部cについて、筆者は何に対してなごやかさを感じているのか。書きなさい。

5 線部dについて、生きものはなぜ「雪の下でぬくぬくと」眠ることができるのか。その理由を具体的に述べた一文を探し、はじめの五字を抜き出して書きなさい。

6 線部eについて、筆者が「眠る山」に魅力を感じている理由を、解答欄の「冬の山は」に続けて、五十文字以内で書きなさい。

7 山にかかわる季語には、「山眠る」のほかに、秋の季語として「山粧う」という表現がある。これは山のどのような様子を表したものと見えるか。十五文字以内で書きなさい。

平成二十一年度
滋賀県立高等学校入学者選抜学力検査
国語 正答例および配点

問題区分	問題区分 正答例										配点																																				
	一					二						三																																			
	6	5	4	3	2	6	5	4	3	2		7	6	5	4	3	2																														
	前提	肥料	保水	なつとく	ぎせい	ア	エ	木々が、毎年山のような花をつけ、実を落とすのは、他者を呼び寄せるため(であること。)	ウ	木は、他者とともに自在に生きる世界をつくりだしていること。	例	びみよう(な)	おとず(れる)	準備	せいたい	イ	イ	エ	「山眠る」という季語	しかし、大	(冬の山は)寒々として、静まりかえっているように見えるが、そこには生きものたちが春を待ちながら息づいているから。山が紅葉で美しく色づくようす。	6	8	5	5	4	4	2	2	2	2	2	20	8	6	4	4	2	2	2	2	2	2	100	42	20	38

平成21年度
滋賀県立高等学校入学者選抜学力検査
出題方針

(国語)

基 本 方 針

- (1) 中学校学習指導要領(国語)に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにしました。
- (2) 様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにしました。

問 題 ご と の お ら い

- 一 木の生き方からさまざまな自由について考えた文章を素材にして、文の組立てや接続詞を考えたり、指示語の内容を理解したりする力、文章の展開を確かめながら要旨をとらえる力などをみるようにしました。
- 二 読書に関する資料から読み取ったことをもとにして、自分の考えをまとめ、適切に表現する力をみるようにしました。
- 三 季語を通して冬の山に寄せる思いをつづった文章を素材にして、単語の類別や古典を理解する基礎的な力、文脈の中で筆者の考えや気持ちを的確に読み取り、それを表現する力などをみるようにしました。